

平成 28 年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	十枝の森自然環境保全活動	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	十枝の森を守る会	生涯学習課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付決定額）
	359,000 円	421,202 円	300,000 円

【 ①課題 ②目的・効果について 】

次の事項がわかるように、事業概要と成果を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施し、

○どのような効果が得られたか。 ○住民の満足度は得られたか。

- ・この森は、我が家の存続も考えず用水事業に生涯をかけた本市の偉人、雄三翁の屋敷跡であり、その業績を後世に伝えて行く為には「十枝の森」として保存する事は本市の歴史的遺産として必要なことと信じて当会は活動してきました。

当会は平成 16 年から補助金もなく市民のボランティア活動を継続していましたが、24 年度の協働事業に参加し 3 年間の補助金による管理上の備品購入により、スムーズな作業ができるようになり現在の森ができてきました。
- ・協働事業に参加するや担当課からは、森内の「一木一草」の切除、植栽の禁止、建物の修繕禁止等の規制があった。そのことは、24 年まで 9 年間「市民の憩いの森としての保存」を願って森の保存活動してきた当会には想定外の規制であった。

この行政の規制は森の荒廃樹林化を促進するだけで、当会の活動方針とは真逆であったところ、その規制を念頭に置きながら、規制にこだわらず、恐る恐るの保存活動を協働事業として 3 年間継続してきた結果、現在、市民が「憩いの森」として活用するようになり写真家、写生会など文化団体の活用、紅葉祭や種々のイベントの開催によりメディアが自発的に取り扱うようになり、紅葉では近隣に限らず県内でも名所になっております。森の現在を知る市民は皆々、5,6 年前は鬱蒼としていて怖い森であったと言います。
- ・今や、「憩いの森」として市民に定着している現状に鑑み、期間限定の協働事業ではいつ中止になるのか、恐る恐るの保存活動では次世代の管理要員の募集や育成などの継続性に力が入りません。行政トップにおいて森の活用に対する「森の将来ビジョン」を明確にして頂く時と考えています。

【 ③企画力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
<p>森内の保全については、守る会が担当し、管理作業とは別箇に協働事業の計画を立て担当課と打ち合わせの上広報活動は担当課で行動した。</p> <p>いまいち、役割分担の明確化を要す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間10回の会議・打ち合わせを実施 ・事業次第では、関係部局との連絡、調整、指導、助言を行った ・広報紙にて、事業PR ・事業実施時の、申込み先及び参加者へ事業説明 ・事業実施時の撮影補助

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由） 広報紙の頻繁な活用により当会の活動と森の宣伝にもなった。 雨天中止が多かった点は今後の課題である。	<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった （理由）

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
5月8日(日) ・里芋、サツマイモ植	会員 5名
6月12日(日) ・サツマイモ植	一般参加者 5名
6月26日 ・挿し木講習 ・じゃがいも堀	一般参加者 8名
8月9日 ・両総用水見学会	一般参加者 20名
10月10日	一般参加者 10名

・第2回目 サツマイモ掘	
11月20日 ・里芋堀（紅葉祭り準備作業）	会員5名
12月3日 ・紅葉祭り、芋煮会	一般来客者150名

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

- 適正であった
 概ね適正であった
 あまり適正でなかった

（理由）

当会は森の管理作業が最大の協働事業と考えておりますが、森内での市民向け学習会は、新規の自然体験塾の試みとしての企画であります。熟の体制強化の必要あり。

森内の事業スケジュールは天候に左右されるものであり、雨天中止に対する備え不足であった。土曜の設定で雨天は翌日などの日程の検討を要する点、雨天時の対策は29年度の喫緊の課題である。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

（例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えたとともに会員も増えた。）

・現在の会員の活動は、雄三翁が自己犠牲で借財を重ねても実現させた用水事業や、澄子さんから寄贈された森の歴史的経緯を事あるごとに会員に説明してきた結果、この森は本市の誇れる歴史的遺産としての必要性を会員が認識したことによりボランティア活動の模範といえるような積極的奉仕活動になってきました。

今年度、定期作業に常時出席する新規会員、男3、女3名が参加しており、ボランティア希望で大学生1名も参加しております。

このことは、市民が誇れるまちを望んでいる現れと理解できます。

・今後この献身的会員による管理作業は、必ずや市民に認知され、偉人の歴史的遺産が「癒しの森」として本市の誇れる財産になるものと確信します。

・現会員のボランティア保存活動で市民活動の模範を示し、この十枝の森の保存の意義を、事ある度に説きながら新規会員を募集して次世代に引き継ぎしていくことが肝要と考えます。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input checked="" type="checkbox"/> 強化、活性化した <input type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した <input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった <p style="text-align: center;">（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境は人間の適度な関与によって適正な環境が維持できるもので、毎年途切れることなく継続する事が最も大切な事です。 ・十枝の森は、数百年の大木が存在する樹木の豊富な自然環境であり、しかも本市の偉人の屋敷跡であり、この森の保存活動に参加できる喜びを会員が理解してきた結果、会員も実力を積極的に発揮するようになり、スピードアップされた作業効果が出てきました。 ・この事で今後は余裕をもって種々の企画も考えられるので、広報面に力を注入し、森の知名度の向上に努めてまいります、さらに、今後は若者の森の保存継承会員の募集にも力がはいるます。

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
<p>森の在り方についての行政の認識と当会の認識との落差をしっかりと議論して修正が必要です。</p> <p>短期の人事異動では当会のまちおこしの強い気持ちに込えられないと思います。</p> <p>この森には、15代続いた家系を失ってまで両総地域の万民救済に生涯かけた偉人の屋敷であったこと、その発想によって両総の繁栄があることなど、まちおこしに要する絶対的要素が既に含まれている事の認識がなければ保存活動はボランティアの名を借りて暇な市民の遊び場になってしまいます。</p> <p>人間社会の行政職員と森の自然界の当会員との間には温度差がありましたが、3ヶ年の協働で日常の多忙業務に携わる職員でも自然界の摂理に重点を置いて学べれば、人間界で必要な知識に偏らない人間形成に役立つ筈です。</p> <p>人事異動で短い期間であっても職員にはこの森に関与した経験を活かして頂きたいものです。</p>
市
<p>当該協働事業は、自然豊かな森としての位置づけができるように、森の定期的な維持管</p>

理を行える組織の育成を行うことや、自然を身近に感じられる場所として、市民が来訪できる形で森の保全活動を行うことを目的としている。

目標の達成のため、十枝の森の保全やその担い手の育成、体験学習会や十枝の森を活用したイベントなどの実施、十枝の森の所有者であり両総用水建設に多大なる功績のあった十枝雄三氏の功績に関する周知などの活動を行った。

十枝の森を活用した体験学習会を随時開催したところ、その学習会参加者が十枝の森を守る会に入会し、十枝の森の自然環境保全に従事している事例が見られたり、子どもから大人向けの両総用水見学ツアーを8月に実施し、小学1年生を含む20名の参加者があった。

また、森の適正な維持管理に努めることができたことなどからも、協働事業を行った成果が見られた。

また、その協働による効果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市 (関係課)
<p><input type="checkbox"/> 効果があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>(理由)</p> <p>毎月の会議で、当会の活動方針を理解して頂いた事は次年度に大きな効果が期待できます。</p> <p>評価 80 点。</p> <p>献身的会員が誕生してきたことは森を永久的に継続管理できる基礎が出来た点。</p>	<p><input type="checkbox"/> 効果があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった</p> <p><input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。</p> <p>(理由)</p>